

地球にやさしく

資源の有効利用について紹介します

上下水道局の事業活動の過程においては、多くの電力を消費するとともに温室効果ガスや廃棄物の排出を伴います。そのため、施設の上部を利用した太陽光発電や、水路の落差を活用した小水力発電等などの環境施策に取り組んでいます。今号では、上下水道事業での資源の有効利用について紹介します。

取組①

浄水発生土の有効利用

長沢浄水場及び生田浄水場での浄水を処理する過程において発生する土（浄水発生土）を、改良土※¹の原材料やセメント原料として100%有効利用しています。

※¹ 改良土とは、石や水分等がばらばらに含まれている土をふるい分けなどの工程を経て、再生させた土のこと。



改良土プラント

取組②

下水汚泥等の有効利用

入江崎総合スラッジセンターでは、市内4か所の水処理センターで発生する下水汚泥を集約処理しており、燃やして灰にした汚泥焼却灰を資源として捉え、セメント原料として有効利用しています。また、汚泥を焼却する工程から発生する余熱を、隣接する入江崎余熱利用プールや管理棟の空調・給湯設備などの熱源として利用しています。



入江崎余熱利用プール

取組③

高度処理水の有効利用

高度処理した下水再生水を江川せせらぎ水路に送水して、水辺環境の回復を図っています。また、水資源を有効利用するために、川崎ゼロ・エミッション※²工業団地等に高度処理水を提供しています。

※² ゼロ・エミッションとは、産業活動から排出される廃棄物を他の産業の資源として活用し、全体として廃棄物を出さない生産のあり方を目指す構想のこと。



江川せせらぎ水路

その他の取組について

環境に配慮した事業運営を行うための「上下水道局環境計画」や、事業活動における環境負荷の状況や環境保全等の取組状況について掲載している「環境計画年次報告書」を上下水道局ウェブサイトで公開しています。

今号で紹介したもの以外にも、様々な取組を行っていますので、ぜひご覧ください。

